

じどうかん通信

第 129 号

令和6年7月発行

愛知県児童館連絡協議会

会長あいさつ

愛知県児童館連絡協議会

会長 村田 吉隆



日頃より、愛知県児童館連絡協議会の事業に対し、皆様のご支援ご協力に厚くお礼申し上げます。また、児童館連絡協議会の会長として、じどうかん通信に寄稿させていただく機会をいただき、心から感謝申し上げます。

国においても「こどもまんなか社会」の実現に向け様々な施策が実施され、児童館は、その一翼を担うこととなります。「こどもの居場所づくり」はその重要なピースであり、こどもの居場所づくりに関する指針においても、「ふやす～多様なこどもの居場所がつくられる」「つなぐ～こどもが居場所につながる」「みがく～こどもにとってより良い居場所となる」「ふりかえる～こどもの居場所づくりを検証する」と居場所づくり推進の4つの視点が整理されています。子どもにとって、居場所がないことは孤独・孤立の問題と深く関係し、子どもが生きていくうえで「居場所」は、必要不可欠なものであります。

近年、児童館の役割や必要性が改めて評価される中、私たち児童館は地域の子どもたちが健やかに育ち、豊かな人間性を育むために、意義のある存在であることを強く意識しています。様々な思いを持つ子どもたちは一様のものではなく、児童厚生員の日々の努力で、それぞれの子どもたちにとっての安らぎのある安心できる居場所を提供しています。私たちは、子どもたちの真剣な姿や笑顔を見るために努力を惜しまず、子どもたちが安心して成長できる環境を提供していくことが重要であり、地域と連携し、より良い児童館活動を築いていくことが私たちの使命だと考えています。子どもたちの未来のためみなさまと一丸となって頑張っていきたいと思えます。

また、11月3日には、犬山市民交流センターフロイデで「第13回元気スイッチ on!! あつまれ! あいちのじどうかん」が当協議会が主体となって開催されることになりました。児童厚生員の学びと情報交換場として、皆様方のご来場をお待ちしております。

最後に、みなさまの日ごろの活動に感謝を申し上げますとともに、皆様のご健康をお祈りしています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

10 年表彰を受けて

西尾市立吉良児童館 山田 光代

西尾市立中央児童館 鈴木 香織

10 年間勤務する中で、子どもたちや保護者と関わり、多くのことを学ぶことができ、心から感謝しています。

児童館職員として常に心がけてきたことは、「みんなが笑顔」になることです。そのために、誰に対しても明るく挨拶をし、名前を呼び、話に耳を傾ける。また、子ども中心に考え、一緒に遊び、積極的にコミュニケーションをとってきました。子どもであれ大人であれ、良いところを探して肯定的に関わることで、互いの関係がスムーズになり、みんなの笑顔が見られることを実感しました。

児童厚生員として嬉しく思うことは、小さい頃に遊びに来ていた子が中学生になり職場体験で訪問したことです。懐かしく思うとともに、たくましく成長した子どもたちの姿に感激しました。また、入園、入学、七五三、節目節目で顔を見せてくれる子、高校生になり「先生、久しぶり。高校に合格したよ！」と報告に来る子もあり、児童館が楽しかった場所として心に残っていることを感じ嬉しく思います。そして、利用者の方から「楽しかったです。また遊びにきます。」と言っていただくことが何よりも幸せで、もっと頑張ろうと次の仕事の活力になっています。

同僚や先輩方の支えも、この 10 年間においては欠かせませんでした。当初は、わからないことが多く失敗もありましたが、仲間の助けがありました。子どもたちの対応について、意見交換や工夫を重ね、より良い関わり方を考えてきました。多くのアイデアや助言をいただくことで、子どもたちの声を聴き、寄り添うことの大切さを学び、成長することができました。

今後も、子どもたちや保護者の居場所となる児童館として、職場の仲間と力を合わせて、子どもたちに寄り添い、思いをくみとりながら、子どもたちの笑顔と成長を感じていきたいと思います。さらに、健康で明るく誠実に、仕事に取り組んでいきたいと思います。

令和5年度 第3回児童厚生員研修会に参加して

愛知県児童総合センター 堤 あかね



令和6年2月2日（金）、江南市KTXアリーナにて開催された第3回児童厚生員研修会に参加しました。神戸市立六甲道児童館の金坂尚人館長により、午前は『安全指導・安全管理』、午後は『児童館は「おむすびやさん」～まちの未来をカードゲームであそびながら考える～』と題した資質向上のための研修が行われました。

午前は、児童館・児童クラブにおいて考えられる危険として、事故や体調不良、怪我、不審者、自然災害などについて、講師の経験談や実践を交えて教わりました。「事前に想定していないことはできない」というお話が印象的でした。他施設での事故も自分の施設に置き換えて考えてみるなど、普段から危険や有事の対応について常に想定し、備える必要があると学びました。私自身も緊急時の対応について自信は無く、非常災害対策計画などについて十分把握できていなかったため、学んでいきたいと思いました。また、予期できる危険もあるため、子ども自身が危険に気付き、回避する力を身に着けるための援助も必要とのお話もありました。愛知県児童総合センターは大型館のため子どもへの援助の機会は限られますが、様々なスタッフが関わる環境だからこそ、スタッフ一人ひとりが危険に対応できる力を身に着けること、連携して危険対応や安全確保ができるようなシステム作りをすることで補う必要性を感じました。

午後は、学び（して欲しいこと）と遊びを組み合わせる「あそび算」の考え方に基づくゲームを通して、課題解決のために、地域の社会資源をどのように組み合わせるのかを話し合いました。ゲームに出てくる「おなやみ」は地域住民と子どもの関わり方など身近なものもあり、手元の「葬儀屋」「観光名所」のような限られた社会資源でどう解決するかを楽しみつつも考えさせられるワークでした。カードがあることで、自分が把握していないような地域資源に気付くきっかけになったり、他地域の方が作ったカードや課題解決法を見て新たな視点を得られたりもしました。新たな児童館にかかわる課題を考えるときはまず館内で対応する方法を考えてしまい、活用しようにも地域の社会資源はあまり把握できていないことを痛感しました。講義でもお話があったように地域にこそ専門家がいることもふまえ、児童館がすべての課題を解決する「なんでも屋」になろうとするのではなく、目的をもって社会資源を仲介する「むすび屋」になるよう工夫していきたいと思いました。

今回の研修では多くの実践が紹介され、所属でも実践したいと思うことばかりでした。研修や他の児童厚生員の方から得た学びを今後の業務に生かしていきたいです。



#こどもまんなか

『そうだ！こども会議をしよう！』

#意見表明

#対話の場

蟹江児童館 若原 真弓

私がこども会議に出会ったのは7年前に保育所から児童館に異動となり、初めての館長研修でした。どんな取り組みをやっているかを情報交換しあい「こどもスタッフ」の取り組みや「こどもスタッフ会議」をし、こどもたちが主体的な活動をしている話を聞き、なんて面白そうだろうとすぐに飛びつきました。児童館勤務2年目にこどもスタッフを立ち上げ、主に夏祭りや、文化祭の出店、お楽しみ会についてをこどもスタッフ会議で話し合いました。児童館のルールもこどもたちで話し合っ



決め、玩具や遊具の使い方や館庭の使い方がこどもたちの話し合いでルールが変わりました。水たまりがあったら外で遊べない→水たまりをよけて遊ぶ（たまには活かして遊んでよい）ボールが道路に出たらボール遊び中止（ボールの種類変更）→2回まではOK、2回出たらどうやったら出ないか話し合っ

てクールダウンしてから再開。大人からしてみたら細かいルールですが、こどもたちが自分たちで話し合っ

て決めたルールです。お互い声をかけて守るようになりました。「こども予算」ではこどもスタッフが中心となり1万円をどんなことに使って児童館を楽しくしたいかを話し合いました。初めは現実的でない（予算オーバー）意見が出たり、高学年の意見が先行したりしていきま

大成功！



したが、議長のこどもが中心となり無事に1万円の使い道が決まりました。自分達で意見を言ったものが購入されて大満足な様子でした。

先日もお楽しみ会でこどもスタッフが大活躍でした。スタッフ会議でたくさん意見を出してくれ、準備を頑張ったこどもが当日来られなかったり、お楽しみ会当日だけこどもスタッフをやってくれる子もいましたがこども達のやりたいことがたくさん詰まった会になりました。

「こどもまんなか社会」にはこどもたちの意見が必要です。そのため

にこども達が自由に意見表明できる「こども会議」の場として、こどもがいつもまんなかの児童館はうってつけです。何より児童館職員、大人もこどもたちの意見にハッとさせられ、笑いや優しさ、こどもたちの悩み、要望に気づかされます。そして実際の対話によってオンラインではないこども同士のつながりが持てるのではないのでしょうか？日本のどまんなかの愛知の児童館でキラキラ輝いたこどもたちの意見が表明され、ほんとうにこどもまんなかの社会を目指していければと願います。小さな取り組みですが、大きな意味がある、児童館職員が「そうだ！こども会議をしよう！」からこどもたちが自分たちで「そうだ！こども会議をしよう！」とできますように。

兵庫児童館の「中高生の居場所づくり」

東郷町立兵庫児童館

兵庫児童館では、月に一度「中高生タイム」を実施しています。閉館時間が17時30分（冬季は17時）という、中高生世代にとって利用しづらい現状の中で18時まで利用できる特別な時間です。



実施日は「この日なら来られる」という中学生たちの声を聞き、近隣中学校の部活休業日で5時間授業の日に設定しました。塾や習い事で忙しい中高生なので毎回参加者が多いわけではありません。「中高生スペシャル」の日は20名程度が参加しますが、普段は2～3名、時には誰も来ない日もあります。それでも毎月必ずお知らせをし、実施します。参加しなければならない、ではなく、いつ行っても参加できる受け入れ態勢を作っています。

参加したメンバーはスタッフと共に、学校や友達、部活動についておしゃべりしたり、スマホを使って流行の曲やアプリを見せ合ったりしながらのんびり過ごします。中高生世代ならではの悩みや進学不安などを聞いたりもします。タイミングを見て「児童館でやってみたいことはある？」と切り出します。一番初めに出てきたのは「タコパ（タコ焼きパーティ）」でした。他にもバーベキュー、肝試し、お泊り会、花火大会、クリスマス会など彼らのやりたいことはたくさんあります。児童館でできること、してはいけないこと、使える予算などを話し合い、一つずつクリアしていきます。話をしているうちに気づくのは、彼らは「タコパ」をしたいわけではなく、こうしてみんなで集まって自分たちで考えていたことを「いいね！」と言いながら実践できる場所が欲しいのだということ。スマホの中の「いいね」よりも実際の「いいね」は彼らのやる気を盛り立ててくれているようです。

実施にあたって一番大切なのは日頃からの信頼関係です。私たちは、彼らがいつ来てもウェルカムな気持ちで受け入れ、今の興味・関心事に興味を持ち、彼らを信じることを心掛けています。今現在いい関係を築けていますが、これからまた次の世代の子どもたちがこの場所を居場所として、活動できるように支援する継続力が必要だと感じています。当時の小学生が「中学生ばかりずるい！」と言いながらこの活動を見ていました。その子どもたちがこの春、中学生になり「中高生タイム」に参加するのをとても楽しみにしています。私たちはその期待に応えつつ、新たな関係性を作っていくために力を注ぎたいと思っています。



行事紹介

みんな集まれ！じどうかんフェス

尾張旭市白鳳児童館

尾張旭市では、市内9つある児童館で「じどうかんフェス」という行事を実施し、それぞれの児童館で企画を工夫しています。

白鳳児童館では、タイムを競うものや記憶を必要とするもの、慎重さが大切となるものを取り入れた「チャレンジコーナー」と、遊びや日常で使えるものを作る「工作コーナー」などを実施し、参加する全ての子どもが楽しめるよう工夫しています。

チャレンジコーナーは、“自分や友達の記録に刺激を受けてどんどん挑戦してほしい”という願いを込め、ホワイトボードに更新方式で最高記録を書きます。「スピード勝負！燃える～」、「運動は苦手だけど記憶することは得意」と、遊び込むものも十人十色です。「あと少し！悔し～い」と何度もチャレンジしたり、「まだ記録更新されていないよ」と得意げになる姿があったり、みんな時間いっぱいまで遊んでいます。

また、参加者から「もっとこうしたらいいじゃん」「準備手伝いたいな～」という声が上がリ、じどうかんフェスで使うものを作ったり、遊びを考えたりする姿も出てきました。今後は、そうした子どもたちの意見を企画に取り入れたり、運営を手伝ってもらうことで、子どもたちのボランティア活動を盛り上げたいと考えています。

令和5年度までは、感染症対策で人数や時間を制限していましたが、今年度からは制限を無しにして開催します。多くの子どもたちが来てくれることを今から楽しみにしています。

<工作（ホバークラフト）>



<おにぎり神経衰弱>



<イソギンチャクキャッチ>



<栗拾い>



遊びの紹介

ジャンピング・キャッチ

～ロケットみたいに飛び跳ねるおもちゃをキャッチして遊ぼう！～

あま市立甚目寺中央児童館

○材料

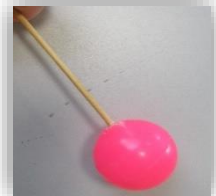
- ・竹串（15 cm）× 1
- ・スーパーボール（直径 3 cm）× 1
- ・ストロー（長さ 10 cmに切ったもの）× 1
- ・ビニールテープ（長さ 5 cmに切ったもの）
- ・両面テープ（5 mm幅のもの）
- ・色画用紙（羽の形にかたどったもの）× 3

○道具

- ・千枚通し
- ・はさみ
- ・ボンド

【本体の作り方】

- ① スーパーボールに千枚通しで、深さ 1 cmの穴をあける
- ② ①であけた穴に竹串を入れ、抜けないようにボンドで固定する



本体の完成！

【羽根の作り方】

- ③ ストローの上方におもりとなるビニールテープを巻く
- ④ 事前に両面テープを貼り付けておいた色画用紙を 3 枚に切り分ける
- ⑤ 両面テープが外側になるように山折りし、ストローの下方に貼る



③



④



⑤

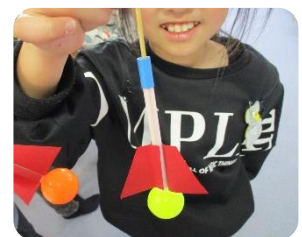


羽根の完成！

【遊び方】

遊ぶときは写真のようにセットするよ

- ① スーパーボールが下向きになるように、指でつまんで持つ
- ② 高い位置で構え、指を離し落下させる
- ③ 着地時スーパーボールが跳ねる反動で、本体から羽根が飛び上がるので、その羽根をキャッチする



自分ひとりでも、ひとつのおもちゃで友だちとふたりで順番に遊んでも楽しいよ♪

令和6年度 愛知県児童館連絡協議会被表彰者

(敬称略)

市町村名	被表彰者名	市町村名	被表彰者名	市町村名	被表彰者名
一宮市	河野 佑佳	新城市	鈴木 三千世	清須市	宮地 智彦
一宮市	三輪 康子	東海市	小野 あずみ	北名古屋市	野網 ともみ
半田市	内田 順子	東海市	坂本 佳代	弥富市	福谷 啓子
豊川市	佐野 尚巳	東海市	鈴木 礼江	弥富市	吉野 美佳
西尾市	山田 光代	大府市	彌勒 麻紀子	長久手市	小澤 正子
西尾市	鈴木 香織	高浜市	古木 雅子	東郷町	山口 千華
犬山市	吉野 優子	岩倉市	永田 貴一	東郷町	大島 俊道
常滑市	中山 理恵	岩倉市	永井 佐幸	東郷町	宮野 若江
常滑市	山崎 真穂	岩倉市	市川 幸恵	東郷町	佐々木 智栄
常滑市	安井 紋女	岩倉市	上中 雅子	東郷町	太田 真理子
常滑市	田中 愛子	日進市	江濱 順子	東郷町	小川 博子
常滑市	柴田 美智	愛西市	田邊 恵美	東郷町	野中 明子
小牧市	齊藤 海香	清須市	片岡 ひろみ	蟹江町	片山 和枝
小牧市	沖本 美智子	清須市	山田 和代		

令和6年度 愛知県児童館連絡協議会事業日程表

月 日	事 業	開 催 地
6月5日(水)	第1回ブロック研修会(三河)	西尾市
6月6日(木)	第1回ブロック研修会(東尾張・知多)	大府市
6月7日(金)	第1回ブロック研修会(西尾張)	豊山町
7月12日(金)	第1回児童厚生員研修会	半田市
10月11日(金)	第2回児童厚生員研修会	豊川市
11月3日(日)	第13回元気スイッチ on!!あつまれ!あいちのじどうかん	犬山市
11月13日(水)	第2回ブロック研修会(西尾張)	北名古屋市
11月14日(木)	第2回ブロック研修会(三河)	豊橋市
11月15日(金)	第2回ブロック研修会(東尾張・知多)	東郷町
2月7日(金)	第3回児童厚生員研修会	稲沢市
4月25日(金)	令和7年度総会	小牧市